

## かわさき：各回の要点

(以下の内容は今後、実態に即して随時改善されていきます。)

### 第1回の要点

ワークショップ「グローバル社会の主権者としてどう生きるか？」の狙い

講師自身がこのような問題を立てる理由

「私自身が考える一般人（主権者）のための社会学：私たちが死ぬまで貢献できることって何だろう？」

1 生い立ち、2 小石川（高校）時代、3 駒場（大学前半）時代、4 本郷：学部から大学院へ、研究者としての自立、5 現代社会論から世界社会論へ、6 世界社会論から地球社会論へ、7 「帝国」論議と歴史的な社会理論、8 変革主体の問題、9 地球市民学と協同組合経験の重み、10 主権者の民主協同社会へ

参加者の自己紹介

自由な発言、自由な議論

## 第2回の要点

### I 主権者とは誰のことか

#### 1 自分の社会のあり方・行き方を決める

主権者という考え方が出てきたのはすごいことではないか。

#### 2 民主社会の成り立ちと広がり

民主社会の原形をつくり、世界に広めたのは市民社会。

市民革命の歴史を適切に理解しているか。

#### 3 資本家・資本主義と民主社会

市民社会は、資本家たちの社会、すなわち資本主義社会として登場してきた。

資本主義理解

ウェーバーの理論

マルクスの理論

国家の役割

### 第3回の要点

#### 4 労働者・社会主義と民主社会

労働者とは？

労働組合運動とはどういう運動であったのか？

普通選挙：労働者たちのもう一つの運動

社会主義とは？

マルクス主義はどのような運命をたどったか？

20世紀社会主義が失敗したのはなぜか？

#### 5 植民地解放後と民主社会

ラテンアメリカの植民地解放はどのように進んだか？

アジアの植民地解放は？ 北朝鮮はなぜ今でも世襲独裁なのか？

中東・アフリカの植民地解放は？ パレスチナ問題はなぜ解決しないか？

独立新興国はどのような苦勞をしたか？

従属理論とは？ 今でも有効なのか？

植民地解放後に現れた新しい思想！

#### 6 本当の民主社会はこれから

先進社会はなぜ行き詰まったか？

新自由主義はどのようにして出てきた、どのような思想なのか？

現代思想とは？

ポストコロニアリズムとは？

サバルタンとは？ マルチチュードとは？

本当の民主社会はこれから、とはどういうことか？

## 第4回の要点

### II 主権者が社会をとらえる

#### 1 全身で社会をとらえる

主権者が主権者になるためには、その社会をとらえることが必要。そのための社会学。

社会をとらえるために、そうしようとしている自分にたえず戻ることが必要。それが自己言及。私は社会をとらえようとしている。だから社会があり、私もある。

その過程で、これまでいつのまにか身につけてきたこと、身につけさせられてきたことを、くり返し洗い直していくことが必要。

習慣からハビトゥスへ。

サルトルを、構造主義と解釈学的現象学をとおして甦えさせる。

ネットワーク（時代の）主権者。

#### 2 共同性と階層性の相克

社会の共同性、階層性、システム性、生態系内在性。

共同性としての社会：環節的社会から有機的社会へ。

階層化する社会：顕在化させるのは暴力。

社会膨張のダイナミズム：共同性と階層性の動的関係。

民族と階級の起源：民族のほうが基礎的な理由。

階級闘争史観から民主社会史観へ：人類史のより基本的な趨勢。

#### 3 宗教・国家・市場・都市

平等と不平等の矛盾を緩和する必要：そのための4つの装置。

宗教は最初の社会統合：神話、聖俗分割、基盤としての教社と教義。

宗教が物化したものが国家：軍隊、税制、官僚制。

人間的自然の発露としての市場：「大転換」に振り回されてはならない。

社会統合の要としての都市：civil engineering から civilization へ。

都市を中心とする社会のシステム化：市民社会で止まってはならない。

## 第5回の要点

### 4 一次システムとしての帝国

古代の帝国、近代の帝国主義、現代の「帝国」を区別する。

帝国の最初の装置は宗教。拝物教、多神教、一神教、無神教。

王、皇帝の意味。経験世界と超越的なものとの境界に位置する特異点。

帝国はなぜたがいに争ったのか。普遍宗教の意味。

帝国はいつまで続いたか。

帝国が争いのあげく滅びたのはなぜか。

### 5 二次システムとしての民主社会

市民とはどういう人びとのことか。市民社会はいかにしてできていったか。

科学技術はどのように発達しはじめたのか。宗教の内面化から無神論へ、とは？

国民国家にはなぜ民主主義が普及したのか。

産業革命はどのようにして興った？ 普遍的市場化とは？

都市とはなにか？ マルチチュードとは？ サバルタンとは？

市民社会の本当の矛盾はどこにあるのか？ 国民国家の争いとは？

### 6 暴力の制御と社会・生態システムの形成

産業革命の地球的規模への拡大が地球環境破壊をもたらしてきているのはなぜか？

社会の生態系内在性とはなにか？ 社会・生態システム観とは？

社会形成を暴力が貫いてきたとはどういう意味か？

暴力の現段階に責任があるのは誰か？

暴力に抗議した人びとがテロリストとなってしまったのはなぜか？

これからの社会への基本視点：暴力を制御しつつ社会・生態系の形成へ

## 第6回の要点

### Ⅲ グローバル化と情報社会変動

グローバル化とは？

ヒトの地球的拡散

文明化の進展

西洋近代文明の世界制覇：世界システムの中核・周辺構造

帝国主義戦争から二つの世界へ

ソ連東欧崩壊後の市場社会化

市場社会化

社会主義と産業主義：収斂理論

消費社会化：ボードリアール他

中国の成長：新たなレギュレーションの可能性

電子情報社会化

印刷技術から新聞へ

テレビの発達：VHF、UHF、衛星放送、デジタル化

インターネットの発達、マルチメディア化

### Ⅳ 新帝国か地球民主社会か

グローバル化

市場化、情報化、電子化

新帝国の登場

帝国、市民社会、帝国主義、社会帝国主義、核帝国主義

新帝国：生政治的生産による構成的権力

新帝国の軍事帝国化

軍隊と消費、軍隊への退行

マルチチュードの主権者化

サバルタンとマルチチュード

マルチチュードの主権者化  
国際民主社会から地球民主社会へ  
ヨーロッパと東アジア  
新帝国への先進社会の従属  
ドイツと日本  
日本のセミコロニアリティ  
マルチチュードの主権者化

## 第7回の要点

### V 地球民主社会としての現代社会

#### 1 なぜ地球社会でなければならないか？

国際社会の存在

国際社会論では済まなくなってきた原因

核戦争とテロリズム

貧富の格差の複雑化

地球環境破壊

人口爆発と少子高齢化の錯綜

世界社会概念で十分か？

地球社会概念の必要性

#### 2 社会の基本相から見た地球社会

共同性と階層性との相克

一次社会システムとしての帝国

二次社会システムとしての市民社会

共同性の否定の否定としての地球社会

階層性の複雑重層化としての地球社会

地球環境破壊的生態系内在性としての地球社会

不均等人口増加的生態系内在性としての地球社会

#### 3 地球社会を民主化していく過程と運動

地球的情報化、デジタルディバイド、言語

国際組織の限界と「帝国」的世界支配システム

イデオロギーから宗教への「改心」と主権者意識

NGO/NPOによる対抗地球社会形成としての主権者行動

## 第8回の要点

### VI 主権者化と再主権者化の方向

#### 1 現代社会の現実

米ソ冷戦終結後の世界をどうとらえるか？

アメリカ：新帝国の発生源

ヨーロッパ：社会民主主義と環境主義

東アジア：中国の台頭と日本の動き

ラテンアメリカ、中東・アフリカ、南アジア・中央アジア

#### 2 社会認識の方向

ネオモダニズム

ウルトラモダニズム

言説理論、生政治的生産理論、アンチ・オイディプス理論

脱構築主義

#### 3 脱構築の脱構築

フランツ・ファノン

サイードのオリエンタリズム批判

スチュアート・ホールとカルチュラルスタディーズ

スピヴァクのポストコロニアリズム

日本：コロニアリズムからセミコロニアルな状態へ。

#### 4 「帝国」的システム

帝国の本来の意味

市民社会による帝国の崩壊

そのうえでの新しい「帝国」とは？

#### 5 未主権者状態と脱主権者化

いまだに民主化されていない地域

北朝鮮と中国：未解決の20世紀問題

民主化されていながら主権者がふたたび主権者でなくされる地域

## 6 主権者化と再主権者化の方向

否定の否定：未民主化という否定を否定して民主化する

脱主権者化という否定を否定して再主権者化する

新帝國的システムは世界全体を民主社会化するために仕掛けられた巨大なトリック

## VII 主権者の主権者による主権者のための社会認識

### 1 日本社会の主権者として

戦前日本の侵略主義

戦後日本の半植民地状態

日本国憲法の役割

経済成長と国土の過密過疎化

原子力発電の導入と福島事故

55年体制崩壊後の問題：民主党政権の拙劣と沖縄の国内植民地化

### 2 市民社会史観から主権者史観へ——人類史の総括

大航海の意味

市民革命と妥協

植民者による植民地解放

植民地主義の日米への飛び火

帝国主義と社会帝国主義：二つの世界大戦と米ソ冷戦の崩壊

世界中の人びとを主権者とする民主主義の基礎

ガンディー主義、オリエンタリズム批判、ポストコロニアリズム

### 3 普遍主義の普遍化と相対主義の相対化：人間と社会の理論

吉田民人社会学の意義

見田宗介社会学の意義

### 4 主権者の政府と事業：実践の指針

あらゆるプログラムの核としての人権意識、自然・人間意識

民主主義のプログラム

政府のプログラムと事業のプログラム

株式会社と市民政府のプログラムから

一株一票制の巨大他国製（世界）企業を統制するプログラムへ

労働組合と労働運動のプログラム

協同組合から民主協同社会のプログラムへ

ポストコロニアル時代の民主社会のプログラム

セミコロニアルな状態とインターナルコロニーを克服する日本社会形成のプログラムへ

## 第9回の要点

### VIII 主権者の現代社会認識：歴史認識・民主社会・平和国家

共同性、階層性、システム性、生態系内在性（環境）、生態系内在性（身体）、総体性をキイとする社会理論の要点を反芻すること。

帝国から市民社会をへて民主社会へ、の意味を理解する。

問題、歴史、構造、意味、戦略、主体をキイとする社会把握の方法を理解すること。

核ミサイルとテロリズム、巨大な格差、それらを管理し矯正するシステムの未発達、地球環境の危機、人間身体の危機という問題の束から出発し、それらが出てきた歴史を反省して現代世界の構造を見出したうえで、それらの意味を読み、読み替えからそれらを克服する戦略を見出し、戦略を実践していく人間像を明らかにする。

社会把握の理論と方法のマトリクス（枠組）を理解して、それをじっさいに用いた社会把握をおこない、内容を埋めた現代社会のマトリクスに到達する。

内容で重く膨らんだマトリクス（236-237 ページの表）が主権者の社会認識の成果。

そこからどんな実践が引き出されるか、各自考えてみる。

また、空欄の表をつくり、自分自身で埋めてみる。

各主権者の社会認識がそこから再出発する。

## 最終回の要点

全体をふり返ってみて、どんなことが頭に残っているか、率直に出し合ってぶつけ合ってみよう。

歴史認識→社会理論→現状把握→生活実践、というサイクルは納得できるものだろうか？

歴史認識はこれで良いのか？ 自分がいちばん引っかかっていることはどんなことか？

共同性→階層性→システム性→生態系内在性（環境）→生態系内在性（身体）→高次システム性、という理論のサイクルはどうだろうか？

短くとっても数万年の人類史をこんなサイクルで理解できるのか？

系統発生は個体発生のかり返しかもしれない、というのは本当なのか？

進歩とは？ 発展とは？ 膨張だけなのか？

現状（現代社会）。「帝国」はもはや問題でないのか？ それとも、オバマもトランプも「帝国」に振り回されているだけなのか？

中国とは何なのか？ インドとは？ アフリカとは？

今の日本をどうとらえるか？

こんな社会学を通り抜けてみて、少しでも生活が変わるのか？